

令和4年度

国立大学附属学校園の実態調査

〈基本調査〉

日本教育大学協会企画・調査研究委員会
国立大学附属学校の在り方検討ワーキンググループ

令和5年2月

地区	大学・学部名																					
	幼稚園	園児数	学級数	教員数	小学校	児童数	学級数	教員数	中学校	生徒数	学級数	教員数	高等学校	生徒数	学級数	教員数	特別支援学校	園児・児童・生徒数	学級数	教員数		
関東	東京学芸大学																					
	附属幼稚園小金井園舎	141	6	8	附属世田谷小学校	609	18	28	附属世田谷中学校	419	12	23	附属高等学校	951	24	57	附属特別支援学校	71	11	35		
	附属幼稚園竹早園舎	60	2	3	附属小金井小学校	619	18	27	附属小金井中学校	419	12	22										
					附属大泉小学校 (帰国クラス3年～6年各1含む)	577	22	36	附属竹早中学校	427	12	23										
					附属竹早小学校	409	12	20														
		東京藝術大学音楽学部																				
													附属音楽高等学校	113	3	11						
		お茶の水女子大学																				
		附属幼稚園	154	6	9	附属小学校 (帰国児童教育学級3クラス含む)	630	21	30	附属中学校 (帰国生徒教育学級3クラス含む)	317	12	25	附属高等学校	368	9	24					
		横浜国立大学教育学部																				
					附属鎌倉小学校	621	18	25	附属鎌倉中学校	434	12	24					附属特別支援学校	62	9	28		
					附属横浜小学校	642	18	29	附属横浜中学校	357	9	20										
	山梨大学教育学部																					
	附属幼稚園	82	4	7	附属小学校	616	18	25	附属中学校	426	12	23					附属特別支援学校	55	9	29		
	新潟大学																					
	附属幼稚園	64	3	5	附属新潟小学校	451	15	25	附属新潟中学校	357	9	18					附属特別支援学校	62	9	30		
					附属長岡小学校	409	12	20	附属長岡中学校	356	9	18										
	上越教育大学																					
	附属幼稚園	49	3	5	附属小学校	420	12	19	附属中学校	322	9	18										
	富山大学教育学部																					
	附属幼稚園	89	5	6	附属小学校	415	12	19	附属中学校	478	12	23					附属特別支援学校	58	9	28		
	金沢大学人間社会学域学校教育学類																					
	附属幼稚園	107	5	7	附属小学校	635	21	28	附属中学校	472	12	23	附属高等学校	366	9	24	附属特別支援学校	61	9	29		
	福井大学教育学部																					
	附属幼稚園	112	6	10													附属特別支援学校	58	9	30		
	信州大学教育学部																					
	附属幼稚園	95	4	10	附属長野小学校	444	12	19	附属長野中学校	613	15	29					附属特別支援学校	57	9	30		
					附属松本小学校	432	12	18	附属松本中学校	461	12	23										
	岐阜大学教育学部																					
	静岡大学教育学部																					
	附属幼稚園	89	5	8	附属静岡小学校	609	18	26	附属静岡中学校	427	12	21					附属特別支援学校	59	9	29		
					附属浜松小学校	412	12	18	附属浜松中学校	322	9	19										
								附属島田中学校	322	9	18											
	愛知教育大学																					
	附属幼稚園	138	6	11	附属名古屋小学校 (帰国児童学級2クラス7名含む)	589	21	33	附属名古屋中学校 (帰国生徒学級3クラス36名含む)	464	15	31	附属高等学校	434	13	31	附属特別支援学校	56	9	30		
					附属岡崎小学校	558	18	26	附属岡崎中学校	432	12	26										
	三重大学教育学部																					
	附属幼稚園	93	5	7	附属小学校	593	18	27	附属中学校	431	12	27					附属特別支援学校	55	9	29		

地区	大学・学部名																				
	幼稚園	園児数	学級数	教員数	小学校	児童数	学級数	教員数	中学校	生徒数	学級数	教員数	高等学校	生徒数	学級数	教員数	特別支援学校	園児・児童・生徒数	学級数	教員数	
近畿	滋賀大学教育学部																				
	附属幼稚園	111	5	7	附属小学校	624	18	27	附属中学校	320	9	19					附属特別支援学校	57	9	30	
	京都教育大学																				
	附属幼稚園	100	4	7	附属桃山小学校	420	12	21	附属桃山中学校 (県国生徒教育学級3クラス含む)	394	12	26	附属高等学校	456	12	36	附属特別支援学校	63	9	32	
	大阪教育大学																				
	附属幼稚園	150	6	9	附属天王寺小学校	627	18	23	附属天王寺中学校	432	12	22	附属高等学校	1304	33	82	附属特別支援学校	56	9	31	
					附属池田小学校	607	18	28	附属池田中学校	432	12	22									
					附属平野小学校	625	18	26	附属平野中学校	323	9	19									
	兵庫教育大学																				
	附属幼稚園	78	6	9	附属小学校	462	18	29	附属中学校	289	9	22									
	神戸大学																				
	附属幼稚園	116	6	9	附属小学校	409	12	22									附属特別支援学校	50	8	32	
	奈良教育大学																				
	附属幼稚園	92	5	8	附属小学校 (特別支援学級3クラス含む)	541	21	34	附属中学校 (特別支援学級3クラス含む)	405	15	30									
	奈良女子大学																				
附属幼稚園	136	6	8	附属小学校	410	12	18														
和歌山大学教育学部																					
				附属小学校 (複式学級3クラス含む)	456	17	25	附属中学校	417	12	24					附属特別支援学校	56	9	28		
鳥取大学																					
附属幼稚園	26	3	6	附属小学校	378	12	18	附属中学校	416	12	23					附属特別支援学校	58	10	30		
島根大学教育学部																					
附属幼稚園	53	2	7																		
岡山大学教育学部																					
附属幼稚園	135	6	9	附属小学校	618	18	32	附属中学校	535	15	33					附属特別支援学校	60	9	31		
広島大学																					
附属幼稚園	61	3	5	附属小学校	378	12	19	附属中学校	363	9	17	附属高等学校	603	15	41						
附属三原幼稚園	69	3	6	附属東雲小学校 (特別支援学級3クラス7名含む)	426	18	26	附属東雲中学校 (特別支援学級3クラス13名含む)	251	9	19	附属福山高等学校	603	15	39						
				附属三原小学校	370	12	18	附属三原中学校	239	6	13										
								附属福山中学校	366	9	18										
山口大学教育学部																					
附属幼稚園	84	4	7	附属山口小学校	403	12	18	附属山口中学校	414	12	25					附属特別支援学校 (小学部3クラス5名、教員5名、 中学部3クラス14名、教員10名、 高等部3クラス21名、教員11名)	40	9	26		
				附属光小学校	373	12	19	附属光中学校	247	9	16										

地区	大学・学部名												園児・児童・生徒数	学級数	教員数				
	幼稚園	園児数	学級数	教員数	小学校	児童数	学級数	教員数	中学校	生徒数	学級数	教員数				高等学校	生徒数	学級数	教員数
四国	鳴門教育大学																		
	附属幼稚園	129	5	7	附属小学校	599	18	27	附属中学校	401	12	26				附属特別支援学校	60	9	31
	香川大学教育学部																		
	附属幼稚園	75	3	5	附属高松小学校	620	19	26	附属高松中学校	313	9	20				附属特別支援学校	61	9	29
	附属幼稚園高松園舎	59	2	2	附属坂出小学校	417	12	18	附属坂出中学校	315	9	19							
	愛媛大学教育学部																		
附属幼稚園	113	6	9	附属小学校	566	18	27	附属中学校	380	12	23	愛媛大学附属高等学校	359	9	36	附属特別支援学校	59	9	28
高知大学教育学部																			
附属幼稚園	88	5	6	附属小学校	641	21	32	附属中学校	417	12	25				附属特別支援学校 (小学部3クラス18名、教員8名、 中学部3クラス18名、教員8名、 高等部3クラス24名、教員15名、 副校長、養護教諭)	60	9	31	
九州	福岡教育大学																		
	附属幼稚園	38	3	6	附属福岡小学校 (特別支援学級3クラス、 帰国子女学級3クラス含む)	449	18	27	附属福岡中学校 (特別支援学級3クラス含む)	371	12	21							
					附属小倉小学校	418	12	18	附属小倉中学校	360	9	17							
					附属久留米小学校	419	12	18	附属久留米中学校	358	9	17							
	佐賀大学教育学部																		
	附属幼稚園	66	3	5	附属小学校	623	18	27	附属中学校	429	12	24				附属特別支援学校	55	9	32
	長崎大学教育学部																		
	附属幼稚園	94	4	7	附属小学校	564	21	30	附属中学校	426	12	26				附属特別支援学校 (小学部3クラス18名、教員7名、 中部部3クラス16名、教員8名、 高等部3クラス21名、教員9名、 校長、教頭、養護教諭)	55	9	27
	熊本大学教育学部																		
	附属幼稚園	123	5	6	附属小学校	644	18	24	附属中学校	479	12	22				附属特別支援学校	60	9	29
大分大学教育学部																			
附属幼稚園	139	5	8	附属小学校	612	18	26	附属中学校	477	12	24				附属特別支援学校	52	9	30	
宮崎大学教育学部																			
附属幼稚園	103	5	8	附属小学校 (特別支援学級3クラス含む)	611	21	30	附属中学校 (特別支援学級3クラス含む)	497	15	28								
鹿児島大学教育学部																			
附属幼稚園	64	3	5	附属小学校 (複式学級3クラス含む)	795	25	36	附属中学校	535	15	32				附属特別支援学校	59	9	30	
琉球大学教育学部																			
				附属小学校	620	20	28	附属中学校	444	12	24								

その他（一貫校など）

大学・学部名	児童・生徒数	学級数	教員数
北海道教育大学	552	21	37
東京大学教育学部	714	18	42
東京学芸大学	715	24	62
福井大学教育学部	719	21	38
岐阜大学教育学部	944	33	56
京都教育大学	873	33	55
	(内訳) 前期課程 585名 21クラス 後期課程 288名 12クラス		
神戸大学	721	19	49
奈良女子大学	725	18	44
島根大学教育学部	694	24	46
	(内訳) 前期課程 343名 12クラス 教員20名 後期課程 351名 12クラス 教員26名		

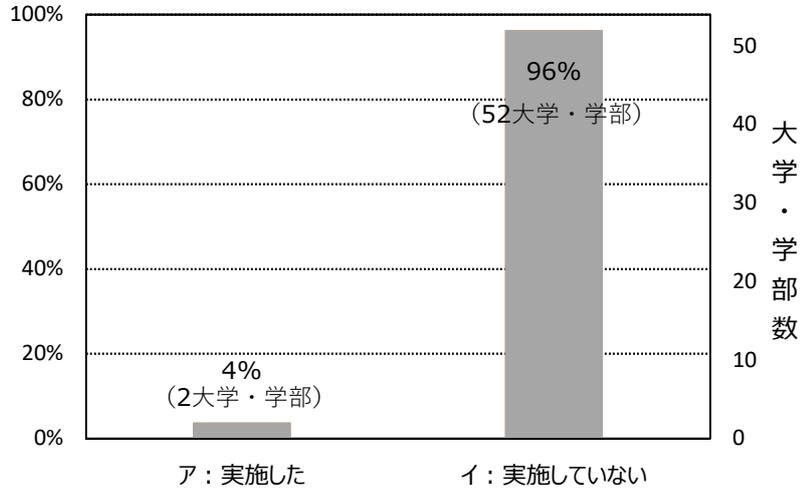
附属学校園数内訳

附属幼稚園	51
附属小学校	67
附属中学校	67
附属高校	13
附属特別支援学校	45
一貫校など	9
合計（附属学校園数）	252

2 附属学校園の組織の縮小または削減の実施（令和4年度）

組織の縮小または削減の実施（令和4年度）

（54大学・学部を100%とする）

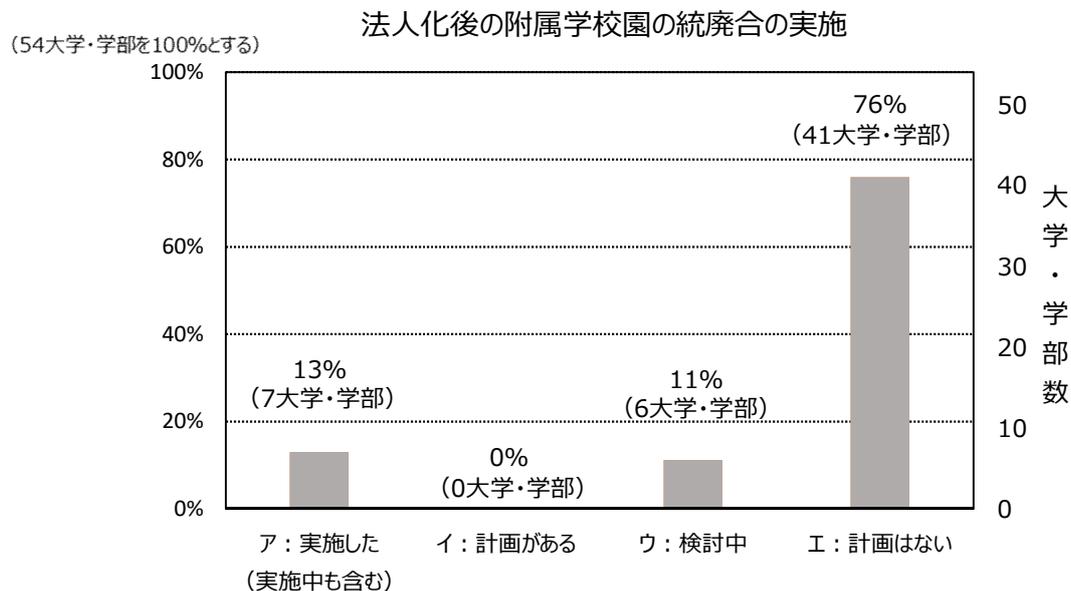


ア：実施した2大学・学部、及びその内容と理由

大学：学部名		
附属学校園名	縮小等の内容	理由
京都教育大学		
附属幼稚園	令和3年度まで、3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級だったが、令和4年度以降、3歳児・4歳児・5歳児を各1学級とした。 なお、学年進行により、令和4年度は、3歳児1学級、4歳児1学級、5歳児2学級とした。	子育て支援ならびに就学前教育の充実・強化を進める必要性から、完全3年保育を実施するため。
長崎大学教育学部		
附属幼稚園	令和3年度園児募集分から募集定員を縮減し、令和4年度に1学級削減し、4学級制（3歳児：2クラス、4・5歳児：各1クラス）とした。具体的には、令和2年度までは3歳児1クラス、4歳児及び5歳児各2クラスの計5クラスであったが、令和3年度に3歳児2クラス、4歳児1クラス、5歳児2クラスの計5クラスとし、令和4年度に3歳児2クラス、4歳児・5歳児各1クラスの計4クラスとした。	平成26年度～30年度に行われた入試の平均倍率の検討から、ニーズの高い3年保育に対応するため。 1クラス減とすることで、常態化していた教頭職員の担任兼務を解消するため。

I -2 統廃合、学級数・学級定員数の検討

1 法人化後の附属学校園の統廃合の実施



ア：実施した（実施中も含む）7大学・学部、及びその内容

北海道教育大学	<義務教育学校> 令和3年度より、附属釧路小学校と附属釧路中学校を、附属釧路義務教育学校に改組した。 (令和3年度～)
東京学芸大学	<中等教育学校> 附属大泉中学校と附属高等学校大泉校舎を統合し附属国際中等教育学校とした。 (平成19年度～)
福井大学教育学部	<義務教育学校> 附属小学校及び附属中学校は、附属義務教育学校へ移行したため、学校数が2から1に変更となった。 (平成29年度～)
岐阜大学教育学部	<義務教育学校> 令和2年度から附属小学校と附属中学校を義務教育学校化し附属小中学校とした。 (令和2年度～)
京都教育大学	<義務教育学校> 附属京都小学校及び附属京都中学校は、義務教育学校（学校名：附属京都小中学校）へ移行したため、学校数が2から1に変更となった。 ただし、学級数や教員数等の縮小等はない。 (平成29年度～)
神戸大学	<中等教育学校> 学部附属であった幼稚園1園、小学校2校、中学校2校及び特別支援学校1校を、大学附属の幼稚園1園、小学校1校、中等教育学校新規1校及び特別支援学校1校に再編。 (平成21年度～)

島根大学教育学部	<p><義務教育学校> 附属小学校及び附属中学校を統合し、附属義務教育学校を開校した。 (令和元年度～)</p>
----------	--

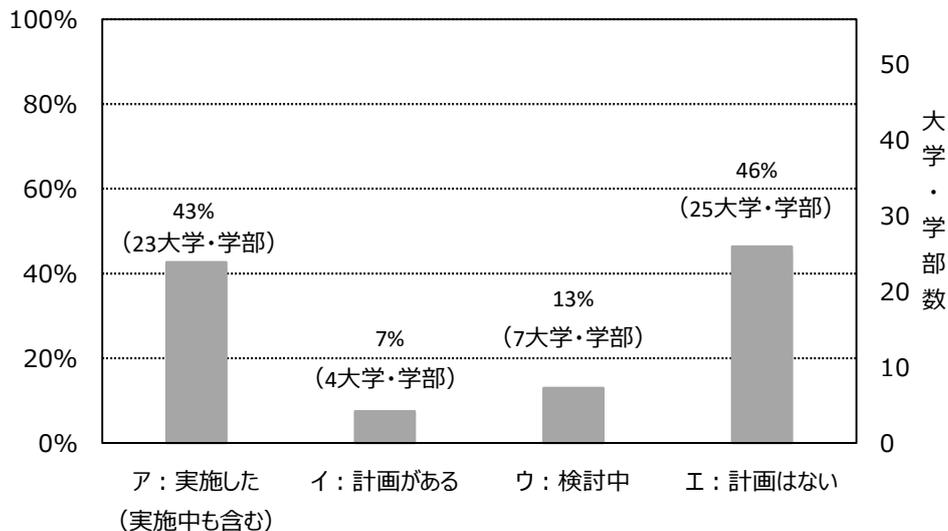
ウ：検討中の6大学・学部、及びその内容

筑波大学	令和2年度より、附属特別支援学校群の将来構想として、校数の削減や各校の機能の統合・再編等の検討を始めている。
横浜国立大学教育学部	現時点では具体的な計画はないが、将来構想の中で検討する必要があると考えている。
大阪教育大学	現時点では具体的な計画はないが、将来構想の中で検討することになると考えている。
和歌山大学教育学部	附属小中学校は、同一敷地内だが、附属特別支援学校が約3km離れた場所にある。特別支援学校への入学や特別支援学級への入級希望、さらには特別支援教育の必要性が高まっている中、附属特別支援学校の移設を含めて附属学校のあり方について検討を始めたところだ。ただし、現時点では具体的な計画立案には至っていない。
広島大学	学内の附属学校園の機能強化を検討する会議の中で統廃合に関しても検討している。
香川大学教育学部	現時点では具体的な計画はないが、学内の附属学校園の機能強化を検討する会議の中で、統廃合に関して俎上に上がっている。

2 法人化後の附属学校園の学級減の実施

法人化後の附属学校の学級減の実施

(54大学・学部を100%とする)



ア：実施した（実施中も含む） 23大学・学部、及びその内容

弘前大学教育学部	<附幼>	平成24年度まで3歳児1学級20名、4歳児2学級70名及び5歳児2学級70名の定員としていたが、平成27年度から完全3年保育（3歳児2学級30名、4歳児1学級30名及び5歳児1学級30名）とするため、平成25年度から定員の学年進行を行った。この過程において、平成25年度に3歳児2学級30名、4歳児1学級30名、5歳児2学級70名とし、平成26年度から3歳児2学級30名、4歳児1学級30名、5歳児1学級30名の定員で、1学級減となった。
	<附小>	附属小学校の単式学級数を3学級から2学級へ削減した。（令和3年度～）
	<附中>	附属中学校の学級数を5学級から4学級へ削減した。（令和3年度～）
秋田大学教育文化学部	<附幼>	完全3年保育への移行のため5学級から4学級へ減。（平成28年度～）
山形大学	<附幼>	3歳児1学級増・4歳児1学級減。（平成22年度） 5歳児1学級減。（平成23年度）
	<附小>	1・2複式学級の廃止。（平成22年度） 5・6複式学級の廃止。（平成26年度）
福島大学	<附小>	平成20年度から、24クラスから順次年ごと1クラス減し、平成23年度に20クラスとなった。
筑波大学	<特支>	筑波大学附属聴覚特別支援学校の幼稚部の学級数を平成29年度入学より1学年3学級から1学年2学級に縮小。 筑波大学附属桐が丘特別支援学校小学部を11学級から6学級、本校中学部を7学級から6学級に減らし、施設併設学級中学部を2学級から3学級に増やした。全体では5学級減となった。（令和3年度）

群馬大学共同教育学部	<附小>	それまで1学年4クラスだったところを、平成22年度に入学した学年から、1学年3クラスになるようにした。
千葉大学教育学部	<附小>	平成16年4月に1年生の学級数を4学級から3学級とし、学年進行により平成21年4月に全学年3学級となった。
	<附中>	生徒数は、平成17年度入学の1年生から順次減らし、平成19年度に各学年5クラス（計15クラス）を各学年4クラス（計12クラス）に一斉に変更した。
東京学芸大学	<附小>	附属学校に求められている、国の教育政策の推進に寄与する「拠点校」としての役割、地域の教育の「モデル校」としての役割を追求していくため、附属小金井小学校の入学定員の見直し（1学年児童数160人→120人(40人減：1学級減)）を行い、弾力的なクラス編成や教科内容に応じた少人数指導の実施等、教員を柔軟に配置し、児童にキメ細かい指導を行う体制を構築するため、平成22年度から学年進行により実施。
山梨大学教育学部	<附幼>	平成16年度に教員削減のため、附属幼稚の学級1・教員1名の減。
金沢大学人間社会学部 域学校教育学類	<附小>	日本語適応教室「さくら」（定員4名）を新設。（令和4年度～）
信州大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園で平成30年度1学級減(内訳：年中1学級30名減とし、年少30人学級を15人2学級とした)、令和元年度1学級減（内訳：年長1学級減）とした。
	<附中>	附属長野中学校で3年間、附属長野小学校で6年間かけて、学級をそれぞれ1学級減とした。（平成20年度～）
岐阜大学教育学部	<義務教育 学校>	令和2年度から義務教育学校（附属小中学校）となり、併せて新7年生以降の学級数を順次3学級にすることとした。学年進行により、令和4年度は9年生が4学級から3学級となり、7年生・8年生・9年生ともに3学級となった。
愛知教育大学	<附小>	【附属名古屋小学校】平成30年度入学の学年から普通学級の学級数を1学年「3または4学級」から「3学級」とした。また、令和2年度から4年生の帰国子女学級の募集を停止した。
	<附高>	【附属高等学校】令和3年度入学者より、それまでの1学年5学級編成を1学年4学級編成とした。
京都教育大学	<附幼>	附属幼稚園の学級数について、令和3年度まで、3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級だったが、令和4年度以降、3歳児・4歳児・5歳児を各1学級とした。なお、学年進行により、令和4年度は、3歳児1学級、4歳児1学級、5歳児2学級とした。
	<附高>	令和2年度に入学定員を200人から160人に変更し、1学年の学級数を5学級から4学級へ変更した。 （入学者数の減により、令和元年度の限定措置として、1年生のクラスを5学級から4学級としたが定員数は変更なし）
神戸大学	<附小>	小学校2校33学級を小学校1校12学級に、中学校2校21学級を中等教育学校1校18学級に再編（平成21年度～）

和歌山大学教育学部	<附小>	附属小学校において、令和2年度より新入学の第1学年の単式学級を2学級（令和元年度までは3学級）とし、年次進行に伴って、1学年あたりの単式の学級数を2学級へと順次削減している。これにより、現在小学1、2、3、4年生の単式学級数が2学級、5年生以上が3学級の編成となっている。
鳥取大学	<附幼>	平成25年度：学級数5学級→4学級に変更（全定員数90人）、平成24年度：学級数6学級→5学級に変更（全定員数130人） （令和元年度：入園児数の減により令和元年度の限定措置として、4学級を3学級としたが定員数は変更なし（全定員数90人））
島根大学教育学部	<附幼>	平成30年度に4歳児学級の募集を2クラスから1クラスに削減した。そのため平成30年度は4歳児学級が1クラス、5歳児学級が2クラス、平成31年度に各学年が1クラスとなった。
岡山大学教育学部	<附小>	3学級+複式1学級 → 3学級（平成21年度～）
広島大学	<附幼>	平成27年度から三原幼稚園の4、5歳児の学級数を2から1へ削減した。
福岡教育大学	<附小>	附属小倉小学校1学年は少人数学級実施のため平成18年度から3学級編成としていた。しかし教室は、本来2学級分のスペースを3学級に間仕切りして使用しているため、児童間のスペースが狭いうえ、十分な換気が期待できない状況であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドラインを順守するため、本来の2学級編成に戻した。（令和3年度～）
長崎大学教育学部	<附幼>	令和3年度園児募集分から募集定員を縮減し、令和4年度に1学級削減し、4学級制（3歳児：2クラス、4・5歳児：各1クラス）とした。具体的には、令和2年度までは3歳児1クラス、4歳児及び5歳児各2クラスの計5クラスであったが、令和3年度に3歳児2クラス、4歳児1クラス、5歳児2クラスの計5クラスとし、令和4年度に3歳児2クラス、4歳児・5歳児各1クラスの計4クラスとした。
	<附中>	平成21年度から、1学年の学級数を5クラスから4クラスに減らし、学年進行で平成23年度には1～3学年で学級数はすべて4クラスになった。
鹿児島大学教育学部	<附小>	令和3年度から1学級減。

イ：計画がある4大学・学部、及びその内容

岩手大学教育学部	<附幼>	令和5年度に4歳児学級を1学級削減し、令和6年度に5歳児学級を1学級削減する。
	<附小>	令和8年度に低学年の複式学級を廃止する。 また、令和9年度から3年生以上の通常学級を学年進行により1学級削減する。
	<附中>	令和13年度に1年生を1学級削減し、以降学年進行により2年生以上も順次1学級削減する。

筑波大学	<特支>	令和5年度に、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部専攻科鍼灸手技療法研修科が廃科予定。 令和6年度に、筑波大学附属視覚特別支援学校高等部専攻科音楽科が廃科予定。 令和7年度に、筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科が配架予定。
金沢大学人間社会学域学校教育学類	<附幼>	令和6年度に学級数を1学級削減し、4学級体制（満3歳児、3歳児、4歳児、5歳児 各1学級）に変更する計画。
三重大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園では、令和3年度は3歳児1クラス・4歳児2クラス・5歳児2クラスの計5クラスであったが、令和4年度より3歳児クラスの定員減を実施したため、令和4年度に3歳児2クラス・4歳児1クラス・5歳児2クラスの計5クラスとなった。また、令和5年度より3歳児2クラス・4歳児1クラス・5歳児1クラスの計4クラスとする計画である。

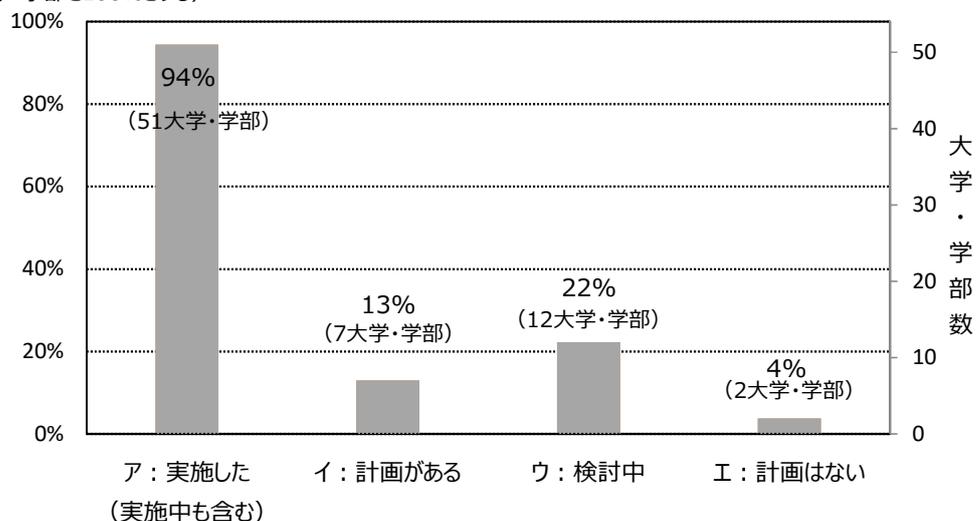
ウ：検討中の7大学・学部、及びその内容

宮城教育大学	有識者会議報告を受けて全体的に規模縮小の可能性について検討中だが、まだ公表できるような内容にはなっていない。
筑波大学	令和2年度より、附属特別支援学校群の将来構想として、各校各部の学級数の削減の検討を開始した。
宇都宮大学共同教育学部	検討中。
京都教育大学	文部科学省と事前協議中。
大阪教育大学	令和4年度開始に向けて学級減を検討していたが、諸事情により保留することになった。
広島大学	学内の附属学校園の機能強化を検討する会議の中で学級減に関しても検討している。
山口大学教育学部	附属幼稚園。（検討を始めた）

3 法人化後の附属学校園の学級定員減の実施

法人化後の附属学校園の学級定員減の実施

(54大学・学部を100%とする)



ア：実施した（実施中も含む）51大学・学部、及びその内容

北海道教育大学	<附幼>	附属幼稚園の保育内容を質・量ともに充実する見直しを行うとともに、きめ細やかな指導実現のため、附属旭川幼稚園（学級数3）及び附属函館幼稚園（学級数3）の4歳児の定員を10名、5歳児の定員を10名削減した。（総定員数としては180名から140名となった）（平成29年度～）
	<附小>	・附属小学校（札幌、旭川、釧路、函館の4校）については、平成24年度から、1学級あたりの定員を35名としている。（※釧路校はR3年度から釧路義務教育学校）
	<附中>	・附属中学校（札幌、旭川、釧路、函館の4校）については、平成26年度から、1学級あたりの定員を35名としている。（※釧路校はR3年度から釧路義務教育学校）
弘前大学教育学部	<附小>	附属小学校では、平成24年度から第1学年の単式学級の定員を、1学級40名から33名とした。 令和3年度から附属小学校の単式学級定員を33名から32名へ削減した。
	<附中>	附属中学校では、平成27年度から第1学年の学級の定員を、1学級40名から33名とした。 令和3年度から附属中学校の学級定員を33名から32名へ削減した。
岩手大学教育学部	<附幼>	4歳児及び5歳児の学級定員を、平成25年度から学年進行で35名から24名に削減した。
	<附小>	通常学級定員を、平成24年度から学年進行で40名から32名に削減した。
	<附中>	附属中学校の学級定数を、平成30年度から学年進行で40名から35名に削減した。

宮城教育大学	<附小>	学級定員数を36人→30人に減。(平成24年度第1学年から順次学年進行により平成29年度完成)
秋田大学教育文化学部	<附幼>	(平成27年度～) 3歳児20名から16名(20名1学級⇒16名2学級)、4歳児35名から32名(35名2学級⇒32名1学級)、5歳児35名から32名。(35名2学級⇒32名1学級)
	<附小>	(平成24年度～) 平成24年度定員40名3学級⇒定員35名3学級、平成27年度定員32名3学級
	<附中>	(平成30年度～) 定員40名4学級⇒定員36名4学級、令和3年度～定員32名4学級
山形大学	<附幼>	3歳児24名→30名(平成19年度) 3歳児30名→34名/4歳児30名→34名:2学級×30名→1学級×34名(平成22年度) 5歳児2学級×30名→1学級×34名(平成23年度)
	<附小>	40名→34名(平成22年度から学年進行/平成27年度完成)
	<附中>	40名→34名(平成28年度から学年進行/平成30年度完成)
福島大学	<附小>	120名→105名(40→35人対応)(平成24年度から)
	<附中>	160名→140名(40→35人対応)(平成24年度から)
茨城大学教育学部	<附中>	附属中学校の学級定員数を40名から36名に削減した。(平成30年度から)
筑波大学	<附小>	筑波大学附属小学校の学級定員数を学年進行で1学級40名から1学級32名に縮小。 平成31年度入学において全学年が1学級32名となった。(平成26年度から)
宇都宮大学共同教育学部	<附小>	平成24年4月に1年生の定員を40名から35名とし、学年進行により平成29年4月に全学級35名定員となった。
	<附中>	平成30年4月に1年生の定員を40名から36名とし、学年進行により令和2年4月に全学級36名定員となった。
群馬大学共同教育学部	<附幼>	平成22年度より、3、4歳児の学級定員を28名とし、平成23年度から全学級28名定員となった。
	<附小>	平成24年度からそれまで1クラスの定員が40名だったところを、平成24年度に入学した学年から、定員を35名に削減した。
	<附中>	平成28年度から定員40名から35名(1学年) : 平成29年度定員40名から35名(1・2学年) : 平成30年度定員40名から35名(1・2・3学年)
埼玉大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園の4歳児学級定員数を35名から30名に削減した。 (平成25年度から)
	<附小>	附属小学校の学級定員数を40名から35名に削減した。 (平成25年度入学生から)
	<附中>	附属中学校の学級定員数を40名から35名に削減した。 (令和元年度入学生から)

千葉大学教育学部	<附幼>	平成25年度以前は3歳児から5歳児全園児のトータルの定員が160名だったが、平成25年度新入園児から徐々に定員を減らし、各クラス28名とした。平成27年度から、全クラス28名になり、トータルの園児数が140名になった。
	<附小>	平成24年4月に1年生の定員を40名から35名とし、学年進行により平成29年4月に全学級35名定員となった。
	<附中>	平成25年度から各学級の定員を43名から38名（一般生40名＋帰国生3名から一般生35名＋帰国生3名）としている。
東京学芸大学	<附小>	平成23年度から実施された公立小学校1年生の学級定員35名化を受け、本学の各附属小学校も平成24年度から学年進行で学級定員の35名化を進めてきた。平成29年度には附属小学校全学年で学級定員が35名となった。平成30年度から附属中学校へ進学するのに合わせ学年進行で附属3中学校の学級定員も35名に減らし、小中連携の一層の推進を可能とし、細やかな指導を実現するもの。
お茶の水女子大学	<附幼>	平成24年度から附属幼稚園の4歳児入園定員を10人削減の60人とした。
	<附小>	平成24年度から附属小学校の入学定員を15人削減の105人（3クラス×35人）とした。
	<附中>	平成24年度から平成30年度までに附属中学校の入学定員を段階的に15人削減の105人（3クラス×35人）とした。
横浜国立大学教育学部	<附中>	鎌倉中学校、横浜中学校について、令和元年度入学生から1学級当たりの定員を40人から35人とした。（帰国生徒定員1学年15人は変更なし。）
山梨大学教育学部	<附小>	平成24年度入学児童から、附属小学校定員を120名から105名に変更。（1クラス35名）
	<附中>	令和元年度入学生徒から、附属中学校定員を160名から144名に変更。（1クラス36名）
新潟大学	<附小>	平成23年4月に「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」の一部が改正され、公立小学校第1学年の学級編制の標準が40人から35人に引き下げられた。それに準じて、本学においても、きめ細かで質の高い教育の実現に資するため、平成24年度から小学校第1学年の学級定員を35人に引き下げ、平成29年度には、小学校全学年学級定員数35人を実現した。
上越教育大学	<附幼>	平成24年度から4歳児1学級を35人から30人に、平成25年度から5歳児1学級を35人から30人に引き下げた。 平成30年度から学年進行で3、4、5歳児ともに24人定員に引き下げた。
	<附小>	平成24年度から学年進行で1学級40人から35人に引き下げた。
	<附中>	平成30年度から学年進行で1学級40人から35人に引き下げた。
富山大学教育学部	<附小>	平成24年度から学年進行により、附属小学校の学級定員を1学年40人から35人とした。

金沢大学人間社会学域学校教育学類	<附幼>	平成28年度 3歳児 20名⇒24名、4歳児 70名⇒48名 平成29年度 5歳児 70名⇒48名
	<附小>	平成24年度 1年生 120名⇒105名 平成27年度 2年生、3年生、4年生 40名⇒35名 3年生、4年生の複式学級 40名⇒12名 平成28年度 5年生 40名⇒39名 平成29年度 6年生 40名⇒39名 令和4年度 1年クラス定員35⇒30名に削減、日本語適応教室「さくら」（定員4名）を新設。
福井大学教育学部	<義務教育学校>	平成30年度附属義務教育学校後期課程・7年生について、40名×3クラスから35名×3クラスへの定員減を実施した。 令和元年度（平成31年度）附属義務教育学校後期課程・8年生について、40名×3クラスから35名×3クラスへの定員減を実施した。 令和2年度附属義務教育学校後期課程・9年生について、40名×3クラスから35名×3クラスへの定員減を実施した。
信州大学教育学部	<附小>	平成24年度から附属松本小学校において1学級定員を40人から35人へ減じた。また、平成25年度から附属長野小学校も同様に40人から35人へ減じた。両校とも総定員は420名となった。
岐阜大学教育学部	<附小>	平成24年度から学級編制35人に対応するため、小学校新1年生の学級定員数を順次35名にした。
	<義務教育学校>	令和2年度から義務教育学校（附属小中学校）の新1年生学級定員数を32名、新7年生学級定員数を35名とした。
静岡大学教育学部	<附小>	静岡小学校、浜松小学校について、平成24年度入学生から1学級当たりの定員を40人から35人とした。
	<附中>	静岡中学校、浜松中学校、島田中学校について、平成30年度入学生から1学級当たりの定員を40人から36人とした。
愛知教育大学	<附幼>	平成23年度まで4歳児・5歳児ともに1学級35名だったところを、平成24年度から4歳児1学級30名に、平成25年度から5歳児1学級30名に、平成30年度から4歳児1学級25名に、令和元年度から5歳児1学級25名とした。
	<附小>	【附属名古屋小学校（普通学級）】及び【附属岡崎小学校】平成23年度まで1学級40名だったところを、平成24年度入学の学年から1学級35名に、令和元年度入学の学年から1学級30名とした。
	<附中>	【附属名古屋中学校（普通学級）】及び【附属岡崎中学校】1学級40名だったところを、平成30年度入学の学年から1学級36名とした。
	<附高>	1学級40名だったところを、令和3年度入学の学年から1学級30名とした。
三重大学教育学部	<附幼>	平成26年度より5歳児クラス、4歳児クラスともに定員35名から30名に減じた。また令和3年度は3歳児クラスの定員は20名であったが、令和4年度より1クラス定員15名に減じ、2クラスとした。
滋賀大学教育学部	<附幼>	平成30年度：4歳児64人→48人 令和元年度：5歳児64人→48人
	<附小>	平成24年度：40人→35人
	<附中>	平成30年度：40人→36人

京都教育大学	<附幼・小・中>	<p>附属京都小学校〔当時〕(普通学級)第1学年40人定員→30人定員(平成24年4月1日)、附属桃山小学校(普通学級)第1学年40人定員→35人定員(平成24年4月1日)</p> <p>なお、附属京都小学校〔当時〕(通常学級)第1学年30人定員を32人定員へ変更(平成25年4月1日)、</p> <p>小中一貫に伴い、附属京都中学校〔当時〕の入試を廃止し1学年40人定員を32人へ変更(平成26年4月1日)、</p> <p>附属幼稚園(4歳児・5歳児学級(各2クラス)35人定員を30人定員へ変更(平成28年4月1日学年進行により完成)。学級定員数について、令和3年度まで、3歳児20名×1学級、4歳児30名×2学級、5歳児30名×2学級だったが、令和4年度以降、3歳児・4歳児・5歳児を各32名×1学級とした。なお、学年進行により、令和4年度は、3歳児20名×1学級、4歳児32名×1学級、5歳児30名×2学級とした。</p>
大阪教育大学	<附小>	平成24年度入学生から、小学校の学級定員減(40人→35人)を実施した。
	<附中>	平成30年度入学生から、中学校の学級定員減(40人→36人)を実施した。
神戸大学	<附幼>	27年度より、幼稚園において学年進行で20人学級を実施。(25人からの定員減)
	<附小>	25年度より、小学校において学年進行で35人学級を実施。(40人からの定員減)
奈良教育大学	<附幼>	<p>平成30年度から、定員を以下のとおり改定した。</p> <p>3歳児24名、4歳児30名(2クラス)、5歳児30名(2クラス)を3歳児24名、4歳児24名(2クラス)、5歳児24名(2クラス)に改定</p> <p>附属幼稚園がR3年度から以下のとおり順次学級定員を変更している(完成年度:R5年度)。</p> <p>R3年度定員102人:3歳児15人×2クラス、4歳児24人×1クラス、5歳児24人×2クラス</p> <p>R4年度定員99人:満3歳児15人×1クラス、3歳児15人×2クラス、4歳児30人×1クラス、5歳児24人×1クラス</p> <p>R5年度(完成時)定員105人:満3歳児15人×1クラス、3歳児15人×2クラス、4歳児30人×1クラス、5歳児30人×1クラス</p>
	<附中>	平成30年度から、定員を以下のとおり改定した。 通常学級1学年160名(40名×4クラス)を1学年136名(34名×4クラス)に改定
奈良女子大学	<附幼>	平成27年度から、附属幼稚園において2年保育の募集を停止し、3年保育のみの募集とし、学級定員を30名から24名に減員した。
	<附小>	平成24年度から附属小学校の学級定員を40名から35名にした。
和歌山大学教育学部	<附小>	平成24年度に全学年で1クラスの児童数が30人となった。
	<附中>	平成27年度に全学年で1クラスの生徒数が35人となった。

鳥取大学	<附幼>	平成23年度：附属幼稚園の3歳児1学級定員20人→2学級30人に変更（全定員数170人）、平成24年度4歳児2学級70人→1学級30人に変更。
	<附小>	平成24年度：附属小学校の1年生1学級定員を40人から35人に変更。（全定員数：平成23年度480人→平成26年度420人）
	<附中>	平成26年度：附属中学校の1年生1学級定員を40人から35人へ変更。（全定員数：平成25年度480人→平成28年度420人）
	<特支>	平成18年度：附属特別支援学校の高等部専攻科新設（定員6人）に伴い、小学部3学級18人→2学級12人に変更。（全定員数変更なし） 令和2年度：全体の総定員（60人）は変更ないが、高等部本科の入学定員を8人→6人（本科定員24人→18人）に、高等部専攻科3人→6人（専攻科定員6人→12人）に変更。
島根大学教育学部	<附幼>	平成30年度に学級定員を20名2クラスから25名1クラスに削減した。
	<義務教育学校>	令和元年度に7年生の募集人数をそれまでの学級数は4のまま変えず、1学級35名から1学級30名に削減した。
岡山大学教育学部	<附幼>	H21年度32人→24人
	<附小>	H21年度40人→36人、H24年度36人→35人
	<附中>	H27年度40人→36人
広島大学	<附幼>	平成27年度から附属幼稚園の4、5歳児の定員を35名から30名に削減した。同じく三原幼稚園の4、5歳児の定員を70名から30名に削減した。
	<附小>	平成24年度から広島大学附属小学校、広島大学附属東雲小学校、広島大学附属三原小学校の第1学年の単式学級を1学級32人とし、順次学年進行を行った。
山口大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園では平成27年度より、きめ細かな保育を可能とするため、4・5歳児の学級定員数を35名から25名にした。
	<附小>	附属山口小学校と附属光小学校では平成24年度より、学級定員数を40名から公立学校の学級定員数に合わせて35名にした。
	<附中>	附属山口中学校では平成24年度より、附属光中学校では平成25年度より、学級定員数を40名から公立学校の学級定員数に合わせて35名にした。
鳴門教育大学	<附幼>	平成24年度 30人→26人
	<附小>	平成24年度 120人→102人
	<附中>	平成30年度 160人→136人
香川大学教育学部	<附幼>	平成24年度から 附属幼稚園 3歳児定員を20名→18名、4歳児及び5歳児定員を35名→30名 幼稚園高松園舎の4歳児及び5歳児定員を35名→30名
	<附小>	平成24年度から高松小学校と坂出小学校の学級定員を40名→35名
	<附中>	平成30年度から高松中学校及び坂出中学校の学級定員を40名→35名

愛媛大学教育学部	<附幼>	<p>○平成24年度まで 3歳児定員20人(20人×1学級)、4歳児定員70人(35人×2学級)及び5歳児定員70人(35人×2学級)の計160人定員。</p> <p>○平成25年度(移行期間) 学級数及び学級定員の見直しを行い、3歳児定員48人(24人×2学級)、4歳児定員48人(24人×2学級)及び5歳児定員70人(35人×2学級)の計166人定員。</p> <p>○平成26年度以降 学年進行が完了し、3歳児、4歳児及び5歳児の全てを定員48人(24人×2学級)の計144人へ定員減。</p>
	<附小>	平成24年度より、定員120人(40人×3学級)から定員96人(32人×3学級)へ定員減。
	<附中>	平成30年度より、定員160人(40人×4学級)から定員128人(32人×4学級)へ定員減。
高知大学教育学部	<附幼>	平成28年度から幼稚園で、160名(3歳児1学級20名、4歳児2学級70名、5歳児2学級70名)から124名(3歳児1学級28名、4歳児2学級48名、5歳児2学級48名)に定員減を段階的に実施。
	<附小・中>	平成24年度から小学校・中学校で、1クラス40名から35名に定数減を実施。
福岡教育大学	<附小>	「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」の改正により小学校第1学年の1学級の児童の数の標準が改正されたことに伴い、平成24年度新入生より本学附属福岡小学校、小倉小学校及び久留米小学校の1学級の児童数の標準を従来の40人から35人への変更を行った。
佐賀大学教育学部	<附小・中>	附属中学校の学級定員を40名から36名に平成30年度から削減。この削減は主として平成24年度から実施した附属小学校の35人学級が平成29年度に全学年35人体制となることに伴って実施。
長崎大学教育学部	<附幼>	<p>令和3年度園児募集分から募集定員を縮減した。具体的には、令和2年度までは3歳児1クラス20名、4歳児2クラス60名及び5歳児2クラス60名の計140名であったが、令和3年度に3歳児2クラス32名、4歳児1クラス32名、5歳児2クラス60名の計124名とし、令和4年度に3歳児2クラス32名、4歳児1クラス32名、5歳児1クラス32名の計96名とした。</p> <p><附小> 附属幼稚園の定員縮減に連動し、令和5年度から学年進行で段階的に学級定員を縮減する予定である。</p> <p><附中> 附属幼稚園の定員縮減に連動し、令和11年度から学年進行で段階的に学級定員を縮減する予定である。</p>
	<附小>	平成21年度より、1学級の定員を40名から30名に変更した。

熊本大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園について、3歳児の入園希望者は過去5年間減少しておらず、増加傾向にある。今後も3年保育を希望する家庭は多く、3歳児受験者数は安定して確保されている。また、その一方で、4歳児クラスの入園希望者（受験者）は平成22年度を境に減少傾向にある。3年次保育が主流となった現在、3歳児で本園に合格しなかった家庭は他園に入園させるため、4歳児の受験は今後も少ないことが予想される。縮小の内容は、平成29年度から3カ年かけて定員を160名（平成28年度）から140名（令和元年度）に変更する計画を立てて実施してきた。本計画は、令和元年度に完成年度（改定3年目）を迎え完了した。令和元年度以降の附属幼稚園の定員管理は、3年保育90名（3、4、5歳各30名）、2年保育50名（4、5歳各25名）の合計140名となった。今後の学級定員管理の変更について、いずれの附属学校園においても特に計画はない。
大分大学教育学部	<附幼>	平成29年度から幼稚園3歳児1学級32人定員、4歳児(2学級)1学級28人定員、5歳児(2学級)1学級28人定員とした。
	<附小>	平成24年度から小学校1学級35人定員とした。
宮崎大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園の入学定員を平成25年度から2年保育32人に減らした(それまでは50人)。附属幼稚園の入学定員を平成28年度から2年保育20人に減らし(それまでは32人)、3年保育28人に増やした(それまでは20人)。
	<附小>	附属小学校の入学定員を平成24年度から105人に減らした(それまでは120人)。
鹿児島大学教育学部	<附小>	平成24年度から実施済み。
	<附中>	平成30年度から入学定員を20人削減。
琉球大学教育学部	<附小>	附属小学校の募集定員を平成24年度から120名から105名とした。
	<附中>	附属中学校において、令和3年度入学生より入学者数を144名（▲16名）とし、1学級36名（▲4名）に変更した。

イ：計画がある7大学・学部、及びその内容

岩手大学教育学部	<附小>	令和7年度に1年生の通常学級定員を32名から24名に削減し、令和8年度に2年生の通常学級定員を32名から24名に削減する。（令和8年度の低学年複式学級廃止に連動する削減のため、令和8年度の2年生をもって学級定員削減完了。）
筑波大学	<特支>	筑波大学附属視覚特別支援学校高等部専攻科音楽科の廃科に伴う募集停止により、令和5年度から定員減（R4:16名→R5:8名）。筑波大学附属聴覚特別支援学校高等部専攻科歯科技工科の廃科に伴う募集停止により、令和5年度から定員減（R4:30名→R5:20名→R6:10名）。

千葉大学教育学部	<附小>	令和6年4月に1年生の定員を35名から28名とし、学年進行により令和11年4月に全学級28名定員とする計画である。
	<附中>	令和6年度入学の1年生から各学級の定員を38名（一般生35名+帰国生3名）から、定員32名（一般生29名+帰国生3名）に順次減らしていく予定である。
横浜国立大学教育学部	<附小>	附属横浜小学校の第4学年から第6学年の学級定員40名（一般・35名、帰国子女・5名）について、1学級35人（帰国子女含む）へ削減する予定。（義務標準法改正への対応として、令和5年度概算要求で対応予定。）
山梨大学教育学部	<附小>	令和6年度入学児童から、附属小学校定員を105名から90名に変更。（1クラス30名）
金沢大学人間社会学域学校教育学類	<附幼>	令和5年度に定員120名から18名削減し102名、令和6年度にさらに18名削減し84名に変更する計画。
	<附小>	定員678名を、令和4年度から段階的に削減し、令和9年度に572名に変更する計画。
愛知教育大学	<附中>	【附属名古屋中学校（普通学級）】及び【附属岡崎中学校】現在の1学級36名を、令和7年度入学の学年から1学級30名とする。

ウ：検討中の12大学・学部、及びその内容

筑波大学	<特支>	令和2年度より、附属特別支援学校群の将来構想として、各校各部の定員の削減の検討を開始した。
宇都宮大学共同教育学部	<附幼>	幼稚園の定員について検討中である。
新潟大学	<附中>	中学校の学級定員40名を35名にする。
福井大学教育学部	<附幼>	附属幼稚園の学級定員減を検討している。
信州大学教育学部	<附中>	附属長野中学校、附属松本中学校において、学級定員減（40名→35名）を検討している。
京都教育大学		文部科学省と事前協議中。
大阪教育大学		現時点では具体的な計画はないが、将来構想の中で検討することになると考えている。
兵庫教育大学		幼稚園、小学校、中学校において、将来的に定員を削減することの検討を進めている。

和歌山大学教育学部	<附中>	令和4年度～ 附属中学校では、1学級35名の学年4学級、計12学級編成。小学校の学級減に伴って児童数が減少することから、それに応じて中学校の1学級あたりの生徒数ならびに1学年あたりの学級数について、適正規模を探っているところだ。
広島大学		学内の附属学校園の機能強化を検討する会議の中で学級定員減についても検討している。
大分大学教育学部	<附幼>	少子化に伴い園児募集の募集定員縮減を検討中。(時期未定)
	<附小>	現在の35人学級を地域の学級編成の状況を踏まえ、適正規模に縮小することを検討中。(時期未定)
	<附中>	現在の40人学級を地域の学級編成の状況を踏まえ、適正規模に縮小することを検討中。(時期未定)
宮崎大学教育学部		文部科学省と事前協議中。